【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公表番号】特表2013-529279(P2013-529279A)
【公表日】平成25年7月18日(2013.7.18)
【年通号数】公開・登録公報2013-038
【出願番号】特願2013-513727(P2013-513727)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｋ　37/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｋ　37/00　　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成26年4月21日(2014.4.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
シャフト（３）と一致して回転する閉鎖部材（２）を有するバルブと、
回転において前記シャフト（３）を駆動するアクチュエータ（Ａ）と、
シャフト（３）に取り付けられたシャフト（３）の回転位置を検出する環状のセンサと、
を備え、
前記センサは、シャフト（３）の長手方向において前記バルブと前記アクチュエータ（Ａ）との間に置かれ、前記シャフト（３）の長手方向における寸法が１．５ないし４ｍｍの間の厚さを有することを特徴とするバルブおよび取付装置。
【請求項２】
前記センサは、
・遠隔作用に反応する目標（４）を運ぶと共に、シャフトと共に一致して回転するような方法でシャフトに取り付けられ、かつ前記シャフトに沿った移動において動かされ得る環状の目標ホルダ（４ａ）と、
・前記センサの本体を形成し、かつ前記センサの他の部品の全ての厚さより厚く、
・回転において一体化されることのない環状部分（６ａ）によってシャフト（３）に嵌まり合う小プレートであって、この部分（６ａ）は一方が他方に関して９０°である目標の二つの検出器（７，８）を含み、目標ホルダ（４ａ）と環状部分（６ａ）は同一の平面にある小プレート（６）と、を備えることを特徴とする請求項１に記載の装置。
【請求項３】
前記プレートホルダ（５）は、前記３つの部分が一体化されるように、前記バルブの取付プレート（１ａ）と前記アクチュエータ（Ａ）との間に把持されることを特徴とする請求項２に記載の装置。
【請求項４】
前記小プレート（６）の上面は、前記プレートホルダ（５）の上面と同一面になるまで、樹脂によって覆われることを特徴とする請求項２に記載の装置。
【請求項５】
前記小プレート（６）は、前記小プレートの下側の面の下に配置された樹脂によって満たされたケーシングに開口する孔（１６）を含むことを特徴とする請求項４に記載の装置

。
【請求項６】
前記ケーシング（９）は、前記小プレート（６）のプリント回路によって出力された電気信号を伝達するエレメントを接続するための開口（１１ａ）を有することを特徴とする請求項５に記載の装置。
【請求項７】
前記目標（４）は、樹脂を成形することによって目標ホルダ（４ａ）に取り付けられていることを特徴とする請求項２に記載の装置。
【請求項８】
前記ケーシング（９）における前記樹脂の導入および重合の後、前記樹脂が前記プレートホルダ（５）の上面と同一面になるまで、前記プレートホルダ（５）、小プレート（６）、検出器（７，８）、ケーシング（９）、バタフライ（１２）、コネクタ（１０）及びアンテナ（１１）を備える全ての部品が、分解する可能性なしにセンサアセンブリ（ＣＰ）において結合されることを特徴とする請求項６に記載の装置。
【請求項９】
センサであって、
・遠隔作用に反応する目標（４）を運ぶと共に、シャフトと共に一致して回転するような方法でシャフトに取り付けられ、かつ前記シャフトに沿った移動において動かされ得る環状の目標ホルダ（４ａ）と、
・前記センサの本体を形成し、かつ前記センサの他の部品の全ての厚さより厚く、
・回転において一体化されることのない環状部分（６ａ）によってシャフト（３）に嵌まり合う小プレートであって、この部分（６ａ）は一方が他方に関して９０°である目標の二つの検出器（７，８）を含み、目標ホルダ（４ａ）と環状部分（６ａ）は同一の平面にある小プレート（６）と、を備え、
前記小プレート（６）は、前記小プレートの下側の面の下に配置された樹脂によって満たされたケーシングに開口する孔（１６）を含み、
前記プレートホルダ（５）、小プレート（６）、検出器（７，８）、ケーシング（９）、バタフライ（１２）、コネクタ（１０）及びアンテナ（１１）が、分解する可能性なしにセンサアセンブリ（ＣＰ）において結合されることを特徴とするセンサ。